

マゴイにおけるウイルス性コイ浮腫症の発生事例

令和6年6月に福島県内水面水産試験場（以下、内水試）で飼育していたマゴイ親魚が全滅し、ウイルス性コイ浮腫症（以下、CEVD）が確認されました。マゴイがCEVDで死亡する事例は国内でも非常に稀であり、県内では初の事例であったため紹介します。

ウイルス性コイ浮腫症（以下、CEVD）とは・・・

病原体	CEV (Carp edema virus) と呼ばれるウイルスの感染による病気 「浮腫症」、「眠り病」と呼ばれている。
宿主	コイ、ニシキゴイ（国内では主にニシキゴイが多い）
発生時期	「浮腫症」: 稚魚で初夏に発生しやすい。 「眠り病」: 秋の水温が低い時期に、池揚げなどの移動直後に発病しやすい。
症状	「浮腫症」: 水面近くを浮遊し、池の隅や岸近くで群泳する。数日で全滅することがある。体のむくみ、鰓弁の棍棒化・癒着（図1, 2）、体表の発赤・出血、眼球の落ちくぼみがみられる。 「眠り病」: 池底などで眠ったように横臥する。水面に浮いて横臥することもある。死亡したように見えるが、物音などの刺激によって一時的に起き上がる。
対策	1～2週間0.6%食塩浴をする。回復した感染耐過魚（ウイルスキャリア）は免疫を獲得するが、保菌魚となり感染源となるので、注意が必要である。KHVへの基本的な防疫対策で本病への防除効果も期待できる。



図1 正常な鰓

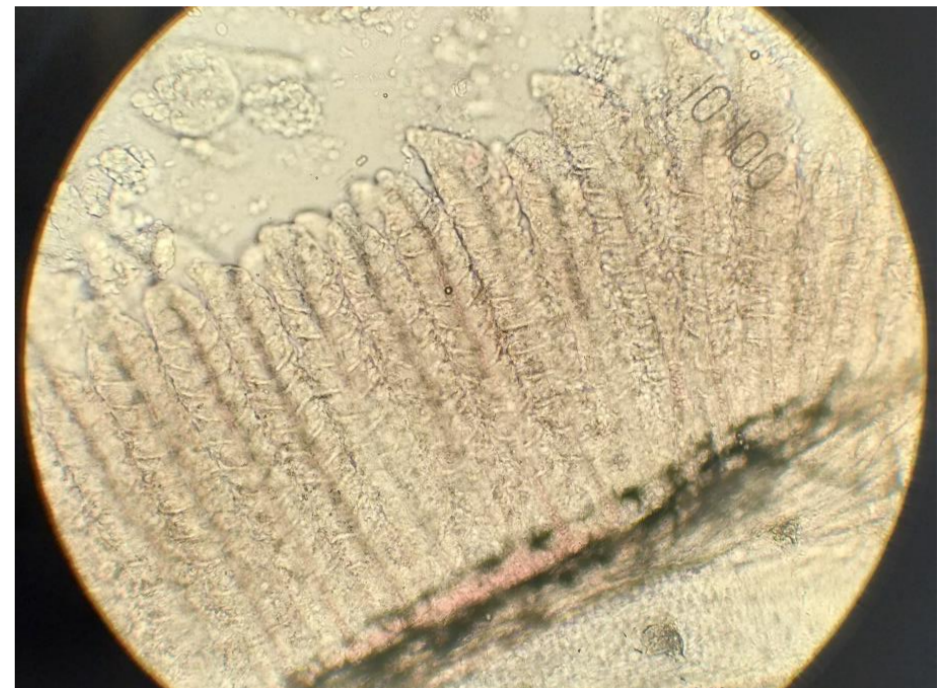


図2 棍棒化・癒着した鰓

発生状況

日付	状況
6月 10日	111尾中24尾を産卵（2回目）のため移動（19℃→20℃）
11日	産卵（20℃→25℃）
12日	飼育池へ移動（25℃→20℃→19℃）
14-18日	親魚111尾全滅（図3）、ふ化仔魚約60万尾へい死（図4）
7月 29日	内水試、CEV陽性（親魚）、 県内初確認（図5）

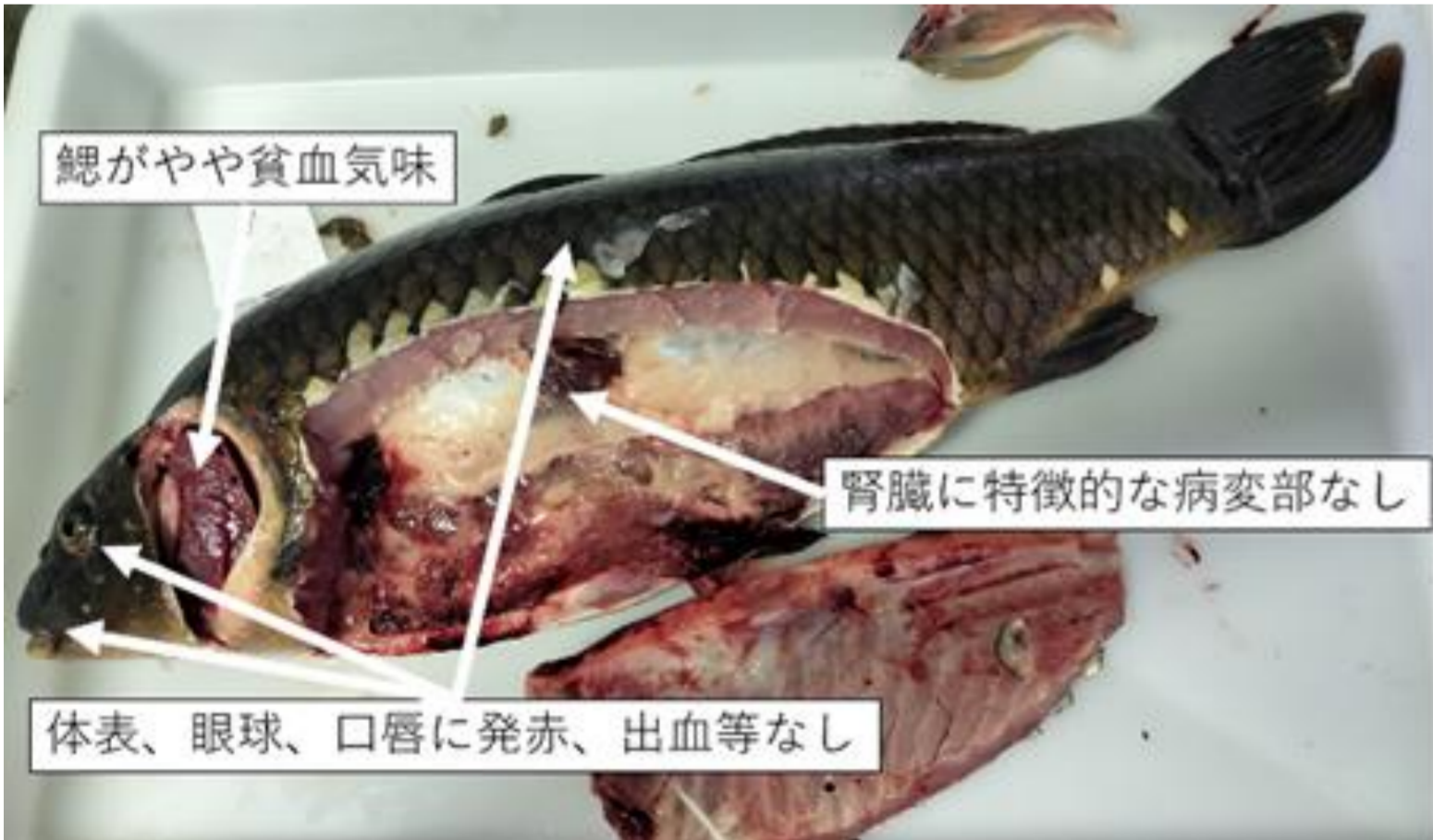


図3 マゴイの診断状況



図4 ふ化仔魚のへい死

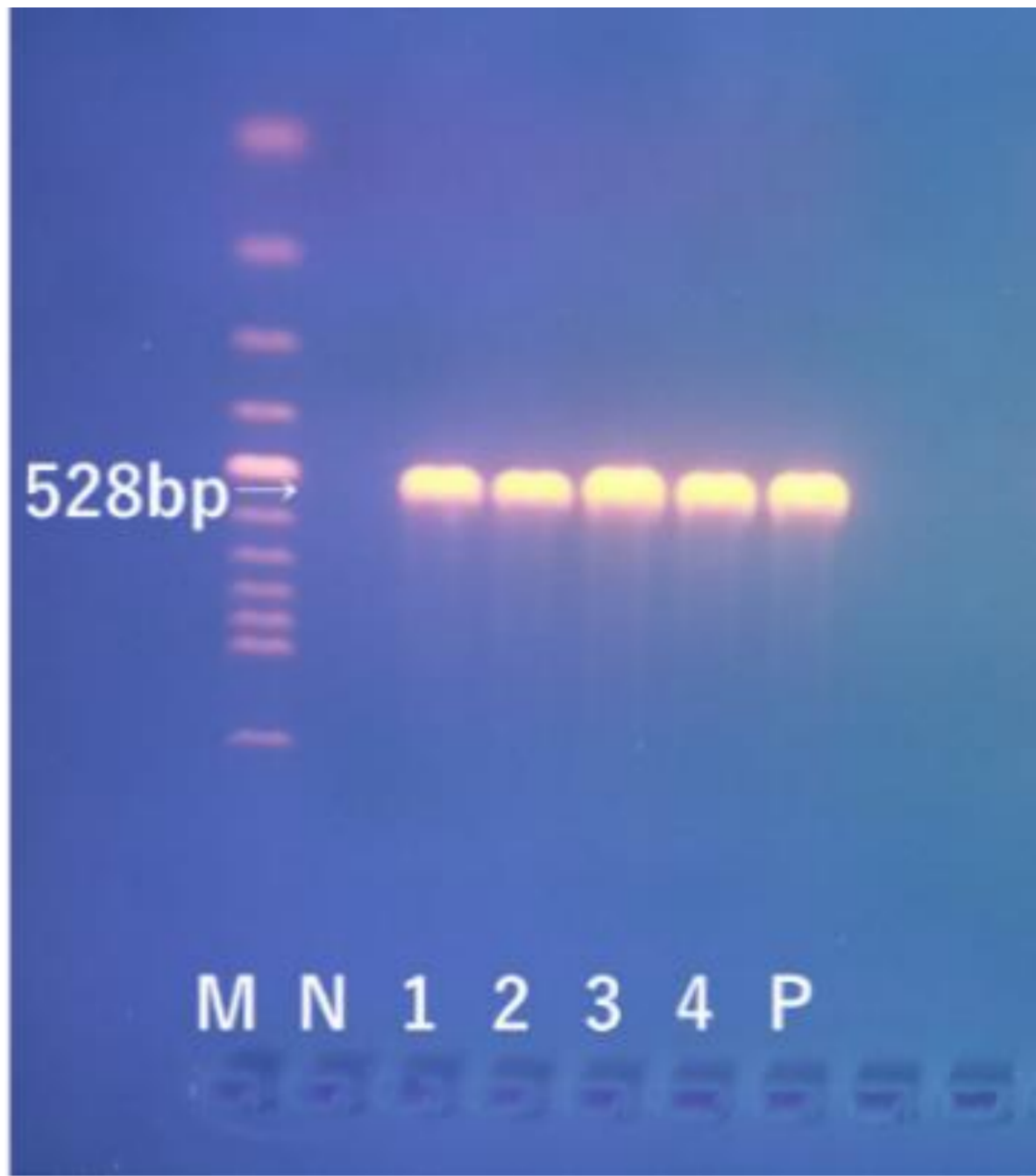


図5 CEVDのPCR増幅産物電気泳動結果

（M: 100bp DNA Ladder、N: 陰性対照、1-4: 検体、P: CEVD陽性対照）

その後の対応

・内水試ではマゴイ稚魚を県内養殖業者へ出荷しています。防疫体制を徹底するため、新たに出荷前にCEVDの保菌検査を行いました。各飼育池から5尾を無作為に抽出し、ひとまとめにして検査に供したところ、すべての池で陰性であったことから出荷しました（図6）。

・マゴイでCEVDが確認されたのは、非常に稀であったことから、（国研）水産技術研究所からの依頼により、陽性だった3検体の組織を提供しました。現在ゲノムを解析しているところであり、結果がまとまり次第、報告いただく予定です。

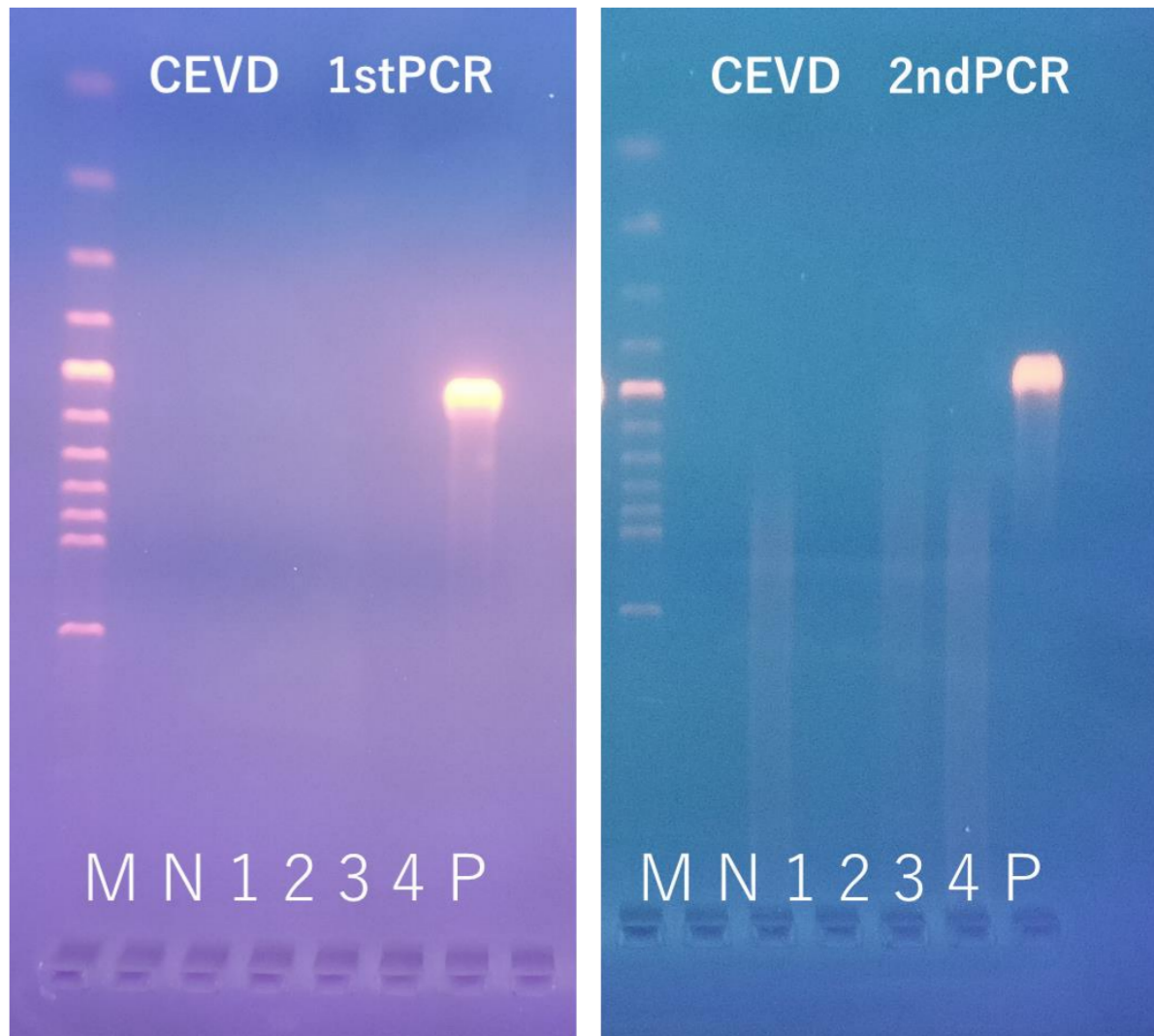


図6 CEVDのPCR増幅産物電気泳動結果